

2013年4月付 FIG 第7部会のニュースレター

第7部会長 Daniel Roberge

アルゼンチン、サンルイにおいて開催された第7部会年次総会について

今活動期間において、第7部会としては、これまで部会に土地問題の専門家代表が出席することの比較的少なかった地域において協力を進めていと考えていた。このため、2012年12月にウルグアイのモンテビデオで開催されたFIGの南米地区会議に引き続き第7部会初のラテンアメリカでの総会をある全地位のサンルイで開催した。

第7部会総会は、各国代表と南米の仲間が出会い、絆を結び、地籍と土地管理に関して課題や活動について発表を行う場としてよい機会であった。

今回の年次総会でも「南米における土地の管理と国際的視点」と題する国際シンポジウムに1日があてられ、シンポジウムの終わりに、宣言が採択され、地域の専門家同士、地域の専門家とOASやFIGのような国際機関とのより緊密な協力が必要であることを参加所が合意したことを宣言し、「言葉は壁ではなく、ことがや文化の差異は財産である。いかなる言葉の問題にも協力とともに働く努力と意思であたってゆこう」と結論付けている。

この年次総会と国際シンポジウムにはサンルイ県庁の後援を受け、Consejo Federal de Catastro (CFC) (連邦地籍委員会) とアルゼンチン測量士会の共催で開催された。第7部会総務広報担当副部会長 Claire Galpin と CFC の Fernando Daniel Nasisi 会長をはじめとする会員の皆さんが技術的内容、準備や予算などすべてにわたり素晴らしい仕事をしてくれた。アルゼンチンの仲間たちの忘れられない温かな歓待に感謝したい。また、組織委員会の Jean-Francois Beaupré, Gilles Huet にはウェブサイトの世話について多大なる感謝の意を表す。また、大切なスポンサーである Trimble と ESRI、ボランティアで通訳をしてくれた Claire Galpin, Daniel Paez と Kees de Zeeuw に特に感謝したい。彼らのおかげで出席者同士の意思疎通が可能になったのであるから。

今回のアルゼンチンにおける会議とシンポジウム、ウルグアイにおける地域会合がこの地域における第7部会のネットワークの発展に寄与し、継続的な協力関係を始めることに寄与することを望んでいる。

詳細および発表内容については <http://fig2012-c7.jimdo.com/> で英語およびスペイン語で読むことができる。

世界銀行の土地と貧困に関する年次会議について

今年も2013年4月8日—11日にワシントンDCにある世界銀行本部で開催された世界銀行の土地と貧困に関する年次会議においてFIG代表が活躍した。

空間的な能力の高度化や土地管理における合目的な解決策が多くのセッションや会議の最後の専門家グループの会議で発表され、議論された。また、第7部会のDaniel Roberge部会長が「地理空間の専門家にして社会的責任を有する新たな測量士」と題する発表を行った。すべてのFIG代表Teo CheeHai, Stig Enemark, Christiaan Lemmen, Daniel Steudler, Robin McLaren, Kees de Zeeuw, Mike Barry, Jongmin Lee, Rohan Bennetの皆さんにこのような大きな会議で測量社を代表して活動してくれたことに多大なる感謝の意を表すものである。

ワーキンググループからのニュース

WG7.1 貧困に対応した土地に関するツール

Christiaan LEMMEN 副委員長

土地管理領域のモデルLADMがISOの正式な標準として出版された。ISO 19152 LADMは社会的な土地保有領域のモデル(STDM)を含んでいる。LADMとSTDMはFIGにより強力に支持されている。この標準は既にヨーロッパ連合内部でINSPIRE仕様の一部として使われている。FAOもLADMに準拠した土地管理システムを開発しているし、UN-HabitatはSTDMに準拠したプロトタイプを作る。このことは、この標準が従来型とそうでないシステムを統合するツールとして利用できるということであり、それは単なる貧困に対応したツールではなく、土地管理システムを作る際の包括的ツールであることを意味している。

標準策定の過程で異なるバージョンのモデルが、国の代表、その他のプロジェクトチーム連携機関の代表(EC, FIGおよびUN-HABITAT)からなる土地管理モデリングの専門家集団により評価され、その後TC/211の編集委員会において評価がなされた。これらの評価における指摘は記録に残され、編集担当たちにより処理された。この手法は、実態的にTC/211のLADM編集委員会の専門家による査読を受けたことを意味する。専門家は次の方々である。Danilo Antonio, replacing Solomon Haile (UN-HABITAT, ケニア); Wim Devos (EU共同研究センター、イタリア); Antony Cooper (南ア、議長); Paul Egesborg と Christian Lord(カナダ); Tomohiko Hatori(日本); Taikjin Kim(韓国); Christiaan Lemmen(オランダ、編集長); Julie Binder Maitra(米); Tarja Myllymaeki (フィンランド); Peter van Oosterom (オランダ、副編集長), Jesper Paasch (スウェーデン); Markus Seifert(独); Harry Uitermark (オランダ、副編集長); Frédérique Williams (仏)。

2012年7月6日「LADM, 研究から実行へ」というワークショップがオランダカダスターにおいて開催された。10カ国から土地行政機関、学界、産業界の関係者、ソフトウェアベンダーとしてESRI, Thomson Reuters, Delinea および Trimble を含めて、程よく混じった総勢30人が参加した。これら産業界の代表は、LADMの重要性をよく理解してくれている。積極的な対応を通じ、産業界はある種の利用者コミュニティを形成しつつある。今後会合が増えてゆくであろう。このワークショップで行われた議論は、www.oicrf.org において閲覧できる。また、LADMのWikiがデルフト大学で利用できる。出版物とUMLモデルは <http://wiki.tudelft.nl/bin/view/Research/IS019152/WebHome> からダウンロードできる。

2012年4月に米国ワシントンDCで開催された世界銀行の土地と貧困に関する会議、5月のローマにおけるFIGワーキングウィーク、11月のウルグアイ、モンテビデオ市で開催されたFIG地域大会、続けてアルゼンチン、サンルイ市で開催されたFIG第7部会年次総会において発表を行った。モンテビデオのイベントでは、UN-Habitat/FIG共同セッション「ラテンアメリカにおける住民参加による土地区画整理」に貢献した。

WG7.2 気候変動と防災

David MITCHELL 委員長、Jaap ZEVENBERGEN 副委員長

WG7.2は、UN FAOと共同で、土地所有と災害リスク管理に関するオンライントレーニングの資料を取りまとめている。

このプロジェクトの第1段階は、材料を集めて、対面での訓練を行うことである。2012年7月に、David Mitchell は AusAID の助成金を得て、フィジーにある南太平洋大学において、太平洋の島国からの25名の参加者に対面訓練を行った。

10月に、Jaap Zevenbergen と FAO の Adriana Herrera は、西インド諸島大学において、いくつかのカリブの国々からの参加者に対して訓練を行った。これらの訓練の結果は、いくつかの国の事例研究や視聴覚教材に結実しており、これらは第2段階で作成するオンライントレーニング教材に含まれることになる。

Jaap Zevenbergen, David Mitchell および Francis Roy が FAO に土地所有と空間情報管理、地価評価と課税および土地利用計画に関する評論をそれぞれ投稿した。これらの評論は、FAOのボランティアなガイドライン普及プロセスの一部として将来オンラインで利用可能な資源に含まれる。

2013年から2014年にこの素材を用いるとともに、2014年のプロジェクト終了までに、これを適切なオンライン形式に仕立て上げることを予定している。われわれはこの仕事の進展についてFAOとさらに議論を進め、アブジャのワーキングウィークとヤウンデの第7部会会合に報告する予定である。また、これらのイベントに際し、訓練のセッションを開催する可能性がある。

WG7.2の活動としてアブジャのワーキングウィークにFIG気候変動タスクフォースの会合にもDavid Mitchellがメンバーとして参加する。

WG 7.3 地籍の展望

Gerda SCHENNACH 副委員長

2011年インスブルックにおいてきわめて成功裏に開催された地籍2.0シンポジウムと紀要の出版を受けて、このWGは以下の点について活動している。

- ・地籍における新技術の検討および社会における境界と境界杭の役割の分析
- ・専門家と地籍プロセスの将来モデル、とくに市民参加に焦点を当てた検討
- ・多目的地籍の後継としての多機能地籍の要件の定義
- ・2014年を目途に編集する最終的な冊子の初期的概要

WG7.3のメンバーは数多くの国際あるいは国内のセミナーや会合に参加し、地籍の将来の発展についての発表を行っている。世界の異なる地位間の対話、専門家と外部の利害関係者との対話をつうじて相互に利益のある関係を構築し、これまでの経験に照らして、最適な答えを見出すことの必要性が議論された。

3次元地籍に関する第3部会と第7部会の合同WG

Peter VAN OOSTEROM 委員長

中国深圳市において2012年10月25日-26日に開催された3次元地籍シンポジウム

第3回シンポジウムには20の異なる国々から160名を超える参加者があった。もちろん開催国中国の参加者が多かった。多かったのは市レベルで、深圳、香港、澳門、北京、上海、広州、武漢、長春、成都、西安、寧波、南京などである。これらの市のほとんどが1000万程度の人口を有する。そういうわけで、中国からの参加者が多かったのは、地理的に近いのみではなく、深圳を代表例とする、これら中国の大都市が3次元に発展しており、3次元

地籍がすぐにも必要だからであることが分かる。

このシンポジウムに関する詳細は次のサイトにある。

<http://www.cadastre2012.org/>

第5回 LADM ワークショップ（3次元に注目した）が国際地球情報シンポジウムと共同で、2013年9月24日―25日にマレーシアのクアラルンプールで開催される。詳細は LADM Wiki

<http://www.isoladm.org>

および参加案内は

http://wiki.tudelft.nl/pub/Research/ISO19152/LADM2013Workshop/flyer_LADM2013.pdf

エクステンデドアブストラクトは2013年5月31日までEasyChair経由で受け付けている。

<https://www.easychair.org/account/signin.cgi?conf=ladm2013>.

2013年は3D地籍のワークショップは開かない。

3D地籍合同グループのさらなる情報は次へ。

www.gdmc.nl/3DCadastres

WG7.4 地籍と土地管理の革新

Richard GROVER 副委員長

WG7.4は、2012年9月20日―21日ハンガリーのブダペストにおいて、ハンガリー地方開発省及びFAOとの共催で「経済移行国における国土の管理、課題と将来の道筋」と題する国際セミナーを成功裏に開催した。このセミナーは、2008年にベローナでFAOとFIGにより開催された、国有、公有地の管理に関するセミナーに引き続くもので、座長はRichard GroverとAndrás Osskóが務めた。会議には26に国々から65名の参加者があった。多くの経済移行国からの参加は、FAOの奨学金による旅費宿泊費の負担により可能になった。

このセミナーの重要な特徴は、数多くの良く構成され、専門的な事例と長期にわたり経済移行国で働いた専門家による概論である。提出された論文は、地方開発省が運営するセミナーのウェブサイトで見ることができる。

http://en.foldhivatal.hu/index.php?option=com_content&task=view&id=175&Itemid=16

論文は、FIG と OCRIF から利用できる。冊子は現在準備中であるが、これには編集を経たセミナーで発表された論文と、FIG 第 7 部会が国有、公有地の管理について行ってきた調査に基づく国別研究が収録される。

WG はそれぞれの地域で国有地の管理に関する類似のセミナーをやる意思がありそうで、まだしっかりした提案が出ていない組織に働きかけをしている。合わせて、国別研究の数を増やす仕事も行っており、経済移行国に関するさらなる研究とともに以前の研究のアップデートも伴っている。

今後の行事

次回第 7 部会年次総会および国際シンポジウム

カメルーンのヤウンデ市において 2013 年 10 月 21 日から 25 日まで開催

次回 FIG 第 7 部会年次総会はカメルーンのヤウンデ市で、フランス語圏測量者連盟 (FGF) および FIG 第 2 部会との共催で開催される。

実態的には FGF と FIG 第 7 部会双方とも総会と年次総会をカメルーン、ヤウンデ市において開催することを決めた。これは 2013 年において世界中の土地管理にかかわる測量士が中央アフリカに集まり、アフリカの同僚たちに会い、サポートを行う 2 度目の機会である。

このイベントのプログラムは近いうちに公表される。それには会議、土地管理訓練セッション、土地政策と土地管理に関する国際シンポジウム並びに技術的視察が含まれる。

署名

Daniel Roberge, Chair

FIG Commission 7